

=====

** 日本学術会議ニュース・メール ** No.500-502

=====

■-----

国際会議における「ユニークベニュー」に関する関心度調査へのご協力をお願い
(観光庁からの依頼)

-----■

■ アンケート概要

観光庁では、我が国の国際会議誘致・開催の競争力強化の一つとして、ユニークベニューの開発・促進に取り組んでおります。

この度、国内の学会関係者の皆さまのご関心度等を把握するため、アンケート調査を行わせていただきたいと思います。

アンケートは選択式で、質問は10問程度、所要時間は3分程です。学術振興のため、ぜひご協力をお願いいたします。

ご回答は下記の URL からお願いいたします。

<http://krs.bz/scj/c?c=250&m=22945&v=afbe29e6>

■ 問合せ先

観光庁国際会議等担当参事官室 担当：篠原

Tel : 03-5253-8938

■-----

平成 27 年度共同主催国際会議「国際第四紀学連合第 19 回大会」の開催について

-----■

会 期：平成 27 年 7 月 26 日（日）～8 月 2 日（日）[8 日間]

場 所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

日本学術会議と日本第四紀学会が共同主催する「国際第四紀学連合第 19 回大会」が、7 月 26 日（日）より、名古屋国際会議場で開催されます。

本国際第四紀学連合第 19 回名古屋大会では、『第四紀学からみた気候変動・自然災害・文明』をテーマに、自然災害対策、気候・海洋・環境変動の予測と対応、人間と環境の動的関係、第四紀年代層序学の技術革新等を検討する予定です。多くの自然災害と激しい環境変動を経験してきた日本で初めて開催される本大会は、日本における先進的な研究や経験を強力に発信すると同時に、海外の幅広い研究者と研究の最前線で交流をすすめることにより、日本とアジアの研究を今後更に発展

させることが期待できます。また、研究成果の社会への発信を強化することも重要な課題の一つで、世界の研究者と共に取り組みを進めようとしています。本会議には世界の 72 ヶ国・地域から約 1,800 名の参加が見込まれています。

また、一般市民を対象とした市民公開講座として、7月19日（日）に「豊橋周辺の第四紀化石」、7月25日（土）に「第四紀学研究から明らかになった地球環境」、7月26日（日）に「第四紀年代学，古気候学，考古学が解き明かす人類進化史の真相—ネアンデルタールの消滅とホモ・サピエンスの拡散—」が開催されることとなっております。

関係者の皆様に周知いただくとともに、是非、御参加いただけますようお願いいたします。

国際第四紀学連合第19回大会関連 市民公開講座

「豊橋周辺の第四紀化石」

日 時：平成 27 年 7 月 19 日（日） 13:30～16:00

会 場：豊橋市自然史博物館 講堂

参加費：無料（事前登録をして無料の入園許可証を取得してください）

「第四紀学研究から明らかになった地球環境」

日 時：平成 27 年 7 月 25 日（土） 14:00～17:30（開場 13:30）

会 場：名古屋大学 野依記念学術交流館 2F コンファレンスホール

参加費：無料

「第四紀年代学，古気候学，考古学が解き明かす人類進化史の真相

—ネアンデルタールの消滅とホモ・サピエンスの拡散—」

日 時：平成 27 年 7 月 26 日（日） 14:00～17:30（開場 13:30）

会 場：名古屋大学 野依記念学術交流館 2F コンファレンスホール

参加費：無料

※内容等の詳細は以下のホームページをご参照ください。

○国際会議公式ホームページ（<http://krs.bz/scj/c?c=254&m=22945&v=5403631d>）

○市民公開講座案内（<http://krs.bz/scj/c?c=255&m=22945&v=f188f313>）

【問合せ先】日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）付国際会議担当

（Tel：03-3403-5731、Mail：i254@scj.go.jp）

■-----
歴史教育の明日を探る―「授業・教科書・入試」改革に向けて―
-----■

日時：2015年8月1日（日）13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂（入場無料・事前予約不要）

（趣旨）

日本学術会議・史学委員会では、これまでも高校歴史教育について、「歴史基礎」の設置、用語の見直しやジェンダー視点を入れた教科書の書き換え等の提言を行ってきました。今回のシンポジウムでは、ジェンダー視点の重視とともに、模索が続く「授業・教科書・入試」という3つの改革を連動させて、新しい歴史教育の実践を具体的に考えたいと思います。

第一部で「改革の三位一体」を現場の声とつなぐ議論をした後、第二部では、その教材実例として「慰安婦」問題を取り上げます。アメリカの歴史学者らから出された「日本の歴史家を支持する声明」（2015年5月5日）や、「慰安婦」問題に関する日本の歴史学会・歴史教育者団体の声明」（2015年5月25日）といった研究者の声、歴史研究の成果は、教育現場にどのように反映されるのでしょうか。実践的に探ってみたいと思います。

プログラム

◆13:00 趣旨説明 井野瀬久美恵（日本学術会議副会長・甲南大学文学部教授）

◆13:10～14:40

第一部 授業・教科書・入試

～歴史教育改革を三位一体で考える～

○報告1 歴史教科書をどう書き換えるか？―ジェンダーの視点から

三成美保（第一部会員・奈良女子大学大学院生活環境科学系教授）

○報告2 高校歴史教育のあり方をめぐる議論

久保亨（第一部会員・史学委員会委員長・信州大学人文学部教授）

○報告3 制度の壁か思考の壁か？―暗記オンリーでない歴史の試験をめざして

桃木至朗（連携会員・大阪大学大学院文学研究科教授）

○コメント 現場の声をつなぐ：小川幸司（長野県立長野高等学校教頭）

◆14:50～15:45

第二部 教材実例としての「慰安婦」問題

～研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成～

○報告1 長志珠絵（連携会員・神戸大学大学院国際文化学研究科教授）

○報告2 小浜正子（連携会員・日本大学文理学部教授）

○コメント ドイツとの比較から

姫岡とし子（連携会員・東京大学大学院人文社会系研究科教授）

◆15:45～16:55 総合討論

司会：井野瀬久美恵

平野千果子（連携会員・武蔵大学人文学部教授）

◆16:55 閉会の辞 久留島典子（第一部会員・東京大学史料編纂所教授）

主 催：日本学術会議史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会

共 催：日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会

科研費基盤研究（A）「ジェンダー視点に立つ『新しい世界史』の構想と『市民教養』としての構築・発信」

<http://krs.bz/scj/c?c=259&m=22945&v=263e2a5f>

後 援：ジェンダー史学会・日本史研究会

問い合わせ先：日本学術会議事務局（審議第一担当）付第一部担当

s251@scj.go.jp

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

発行：日本学術会議事務局 <http://krs.bz/scj/c?c=227&m=22945&v=b92dae68>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34